に、甘は養なり、古へは上下おしなべて常に獸肉を食たりし故に、其料に猪をも養置るなり、中昔より

こなたには獸肉を食こと無き故に、猪を養こともなくして、猪といへば、たゞ野山に放れ居る猪のみにて、其は漢國にて野猪と云、崇峻紀には山猪とあり、人家に養る猪は豕にて、俗に夫多と云、彘と云も同物也、豕を韋能古と云は、たゞ猪と云ことにて、鹿を加古と云、馬を古麻と云と同じ、猪之子のよしには非ず、猪之子は豚字也、○下略

〔本朝食鑑十一獸〕猪訓布多

集解、猪處處畜之、多是厭溝渠之穢也、猪能喜溝渠庖厨之穢汁而食、日日肥肫、食物亦至寡、易畜之、或殺猪以養獒犬、獒犬者善獵、而公家毎厩養之、凡猪得刀創、或爲狂犬被囓、倶不患創處、最生肉者捷不日而痊、故俗爲金瘡之藥、未詳其功、

〔和漢三才圖會三十七畜〕豕ぶた音詩 豕スウ 豭ヲイノコ牡 彘メイノコ牝 豶ヘノコナシノイ去勢 豟大豕 豬イノコ豕子、豬同、豚穀並同、 豕ブタ和訓井、俗云布太、 豬キノコ和訓井乃古○中略

按豕以易畜、長崎及江戸處處多有之、然本朝不好肉食、又非可愛翫者、故近年畜之者希也、且豕猪ブタキノコ、共有小毒、不益于人、而華人及朝鮮人以雞豕爲常食、

〔本草綱目譯義五十獸〕豕イ、古名、イノシヽ、トハ異也、ブタ

唐ニテ家毎ニカフテ食スル也、故ニ家猪ト云ナリ、之ニ對シテ野猪ト云アリ、野猪ハイノシヽノコト也、形大抵相似タリ、イノシヽハ牙有、是ハ牙ナシ、カラダヨクコヘル、人家ノアマリ物ヲ食フ、京ニナシ、長崎ニアリ、唐人阿蘭陀人ニウル多ナリ、日本人モ食フ、此油ヲ蠻語ニマンテイカト云テ藥用ニス、漢名猪脂膏、猪油トモ云、陽龍膏ト云藥子ノ名ナリ、

〔重修本草綱目啓蒙三十三畜〕豕 イ和名鈔 ブタ○中略

唐山ニハ家ニ畜フテ日用ノ食品トス、故ニ家猪ト云フ、山ニ自生シテ田地ノ害ヲナス者ハ、キノシヽト云フ、卽野猪ナリ、長崎ニハ異邦ノ人多來ル、故ニ豕ヲ畜ヲキテ賣ルト云フ、東都ニハ畜フモノ多シ、京ニハ稀ナリ、形野猪ニ似テ肥大、尾ハ短小鼻長ク出、牙ハ口外ニ見レズ、毛深黑ニシテ